

## 共同研究B に参加して

著者	小串 俊寿
雑誌名	東京音楽大学大学院博士後期課程 2018年度博士共同研究B報告書
ページ	98
発行年	2019-03-31
出版者	東京音楽大学
著者版フラグ	publisher
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1300/00001285/">http://id.nii.ac.jp/1300/00001285/</a>

## 共同研究 B に参加して

小串俊寿（サクソフォン）

博士共同研究 B、2018 年度のテーマは「音楽が作られた時と演奏される時」いわゆるその時差のこと。村田千尋先生を中心に教員、学生の皆さんとで色々な意見交換をしながら（時には激論）展開してきました。この授業に 1 年間参加して感じたのは 3 人の学生の皆さん、モーツァルト研究の福地勝美さん、トスティ研究の栗原光太郎さん、ドホナーニ研究の鈴木啓資さんのこだわりの深さと情熱です。学生の皆さんの熱い思いと研究には心から感動しました。本当に好きなんだな〜！と。ブラボー！

作曲された時と演奏される時は日々どんどん時間が広がっていきます。音楽というのは社会情勢、その時の流行などにより色々に変化していきますので、もしかしたら今普通に聴いているモーツァルトもこれから 50 年後、100 年後、500 年後には現在では考えられないような表現、スタイルで演奏されているかもしれませんね。

さあ、時差がもっと広がった 1000 年後はいったいどうなっているのでしょうか…!?